

OSFだより

第94号 2009 (H21) 年2月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midori1911@codacoda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

3人の偉人

かいちょう おかもと ただし
会長 岡本 正

企業でも国家でも、すぐれた指導者(リーダー)がい
ないと成り立たない。スポーツでもAクラスの選手を集
めただけでは勝てない。すぐれた指導者(監督)が必要だ。
格言に「一匹の羊が指揮する百匹の狼の集団より
は、一匹の狼を長とする百匹の羊の方が勝つ」とあ
る。

千葉県は残念だが、偉人の少ない県だ。私個人の考え
では、日蓮・伊能忠敬・鈴木貫太郎の三人が、偉人とい
う名にふさわしい人達だろう。

日蓮は日蓮宗の開祖で、房州小湊の出身。誕生の地
に大きなお寺が建っている。財団の一泊旅行でいつも立
ち寄り場所だ。

伊能忠敬は佐原の人。二百年以上の昔、日本全土の
正確な地図を作り、この地図は当時世界の最高レベルと
言われた。彼の記念館にも今年の5月の一泊旅行で訪れ
る予定だ。

鈴木貫太郎は県北部関宿の出身。1945年、日本が戦争
に敗れた時の首相である。

1945年第二次大戦で日独伊は完敗したが、戦争の末期
ドイツのナチス、ヒトラーは最後まで降伏せず、その
結果ドイツ全土が戦場となり、数十万人の犠牲者が出
た。

特に首都ベルリンの攻防戦は激しく、ヒトラーは
自殺し、ベルリンは瓦礫と化した。また、ベルリン在住
の多くの女性たちが、ロシア兵による暴行の被害を受け
たそうだ。

最後まで戦ったのは日本だけだった。アメリカ・
英国・ロシア・中国が会談し、早期降伏を日本に強要し
てきた。

降伏しない場合は、アメリカは即時千葉の九十九里浜
と九州の宮崎に上陸する計画であった。もしそうなれ
ば日本全土で地上戦が展開されて、沖縄戦と同じく一般
市民にも多くの死傷者が出たであろう。けれども陸軍は
降伏を受け入れようとせず「一億玉砕」を唱え、皇居を
長野へ移す計画までして徹底抗戦を主張した。

このような情勢の中で危機を乗り越えて、全面降伏を
実現し、日本を救ったのが鈴木首相だ。もちろん最終
決断をしたのは天皇であるが、もし鈴木首相がいなかつ
たら、日本中が戦場になっていたことだろう。

国家でも会社でも、創業よりは成長を継続させるこ
とのほうが重要であり、もっとも難しいのは危機に陥
った時の対応である。今日現在、百年に一度といわれる
世界的な経済危機に直面している。アメリカのビッグ・
スリー(GM・フォード・クライスラー)でさえ存亡の危機
に立っていて、各トップは自らの年収を1ドルに下げ
てまでして、必死の生き残りを模索している。

日本においても一流企業のトヨタ、パナソニックなど
が社長の陣頭指揮のもと、大改革に取り組み始めたところ
だ。

このような大不況を乗り切るためには国家において
も、企業においても、固い決意と実行力を持った指導者
が要求される。

千葉県知事の選挙が3月末にある。総選挙も近いうちに
実施されるだろう。千葉県人も国民も将来を託すことが
できる名指導者を選んでほしいと願う次第である。

徐 媛娜 (奨学生) 中国 (河北省)

千葉大学教育学部スクールマネジメント専攻

日本の留学生活で一番楽しかったことについて



私は2006年9月26日に日本へ留学に来ました。この1年半ぐらいの間で一番楽しかったことは大学院試験に合格したことです。2007年の11月30日に発表結果を見たとき、非常に嬉しかったです。

大学院の試験に合格すると、正式に大学院の授業を受けることができます。1年ぐらい、ずっと心配していた不安がなくなりました。教育学部の研究生になってから何回も他人に留学生にとって大学院の試験はなかなか難しいといわれました。2回で合格するのは普通で、2回も落ちた後、そのまま帰国した人もいます。私にとって、1回だけのチャンスしかないから、もし落ちたら、どうすればいいか、中国にそのまま帰ると恥ずかしいだけでなく、もう50歳になった両親にどうやって向かい合おうかと悩んでいました。同時に、自分の留学生活に後悔しないように、頑張ろうと思いました。その目標を目指し、この1年半の中で全然遊ぶ時間がありませんでした。

そして、自分に対して、夢の実現に向けて更に一步、前向きになりました。私のような、1980年代以後に生まれた中国の若者は、「80世代」と呼ばれています。つまり、物心がついた時から、中国ではすでに社会主義的体制から市場主義体制に変わり、一人っ子政策で周りの友達、同級生みんなは親の「宝物」でした。小学校時代に、

「教師の日」(毎年9月10日)が全国的に教師の祝日になり、教師が社会においてとても尊敬される職業になってきましたから、私も「教師になりたい」という夢を持ってきました。そして専科大学から大学の編入試験の際に、私は天津師範大学の英語専攻を選びました。しかし、田舎出身の大学生だったので、大都市に就職するために、より高い職業資格を取らなければならなかったのです。

そのため、大学編入後の2年間で私は英語の上級資格、高校教師免許の取得に必死でしたが、教職科目の演習と教育実習に力が入りませんでした。当然のことで、その後の公立中学校・高校の就職活動でいい結果になりませんでした。中途半端で仕事をするより、もう一度教育について学びなおしたいと思って、日本の留学を決めました。

大学院の試験に合格すると、自分が関心を持っている研究テーマを研究する機会をもらうことができます。大学院の合格は正式な留学生活の単なる始まりだと理解し、2年間の大学院の勉強に十分に力を入れたいです。日本語が下手なので、いろいろ困難があるはずですが、一生懸命、前向きに頑張りたいと思います。

チャン・ユイ・ヴ (奨学生) ベトナム(ダナン)

千葉大学工学研究科人工システム専攻

日本に留学して、一番楽しかったこと

一番悲しかったこと



私が2004年3月15日に日本へ留学に来てから、3年半ほど経ちました。振り返ってみると、日本で生活して、楽しいこともいっぱいあったけれど、悲しいことも少なくなかったと思います。

数えられないほどの楽しいことの中で、一番楽しいことは日本人の方や、いろいろな国から日本に来た外国人の方に出会えたことです。その方々のお話から、いろいろな国の文化や習慣などが分かるようになりました。そして、同じ物事について、意見や考え方や解決のし方を聞いて、面白く思いました。さまざまなことが勉強になりました。

一方、一番悲しいことと言えば、病気になってしまったことです。特に2年前にある時インフルエンザに感染

し、入院してしまいました。友達や知り合いからは遠い所に住んでいて、ずっと一人だった時でした。頭が痛かったし、体がだるかったし、なんでも自分でやって、孤独だと苦しく感じました。家族がそばに居たり、お母さんが料理を作ったりしてほしかった。とても辛い経験でした。

「日本の3年間半は苦しいことと楽しいこと、どちらが多かったらう？」そう自分に問うと、「つらいことが多くとも、楽しいことそして貴重な経験を考えれば『楽しかった』」。そう言えると思いました。そして、苦しいことがあっても、自分の日本に来た目的と将来のことを考えれば、力になって、頑張りたいと思います。

ゴンザレス・オリバレス・ホセ・アントニオ

(会館生)

メキシコ(メキシコシティー)

千葉大学工学研究科デザイン専攻



専攻科目の選考理由と将来の目標について

私は子供のころから、絵を書くのが好きでした。それがきっかけで専攻を選びました。小学生から高校生のおきまで、友達、同級生、先生などを見て、その人の戯画を書くのが好きでした。高校の卒業旅行のために友達と一緒に先生の戯画のTシャツを販売して、稼いだお金で旅行することができました。

もともと子供のころから建築家になりたいと思っていましたので、高校を卒業して、メキシコ国立自治大学建築学部に入りました。しかしまだ半年も経たないうちに違う専攻を勉強したくなりました。建築学部には所属している工業デザイン学科に惹き付けられました。

建築学部の中には三つの専攻があります。工業デザインはその一つです。新しい専攻では、家と建物だけではなく、様々な物を提案することができます。工業デザインの中でも、家具、家電、自動車、陶芸など様々な分野があります。私は最も興味があるのは公共交通機関です。

大学を卒業してから、三年間スチールステンレスの会

社でデザイナーとして働いていました。大学生のときから、日本語を勉強し始めましたので、いつか機会があったら、留学したいなと思っていました。日本に行って、日本語と日本文化の知識を深めて、人生の視野が広がると思います。

私の研究の目的はメキシコ市に適している超低床路面電車を提案することです。この電車の利点は人々を大量に早く、安く、移動させることができ、優先道路を走ることができること。また、床の低さの点で強調したいのは、床が低いとプラットホームを建築する必要がなく、障害者や高齢者や環境に優しい交通機関になるということです。

将来は自分の専攻と関係がある仕事を見つけられればと思います。博士まで進学すると、年齢的に就職するのは難しくなるので、メキシコ国立自治大学建築学部のデザイン学科の教師になることを目指しております。また日本にいる間、メキシコにない物を探して、メキシコの社会に合わせて、ビジネスしたいです。

李 静 (奨学生) 中国(新疆ウイグル自治区)

麗澤大学言語教育研究科 比較文明文化専攻

日本に留学して、一番楽しかったこと

一番悲しかったこと



日本に来て5年目になるが、最初の一年間は、東京の日本語学校に通っていた。そして、2004年研究生として念願の麗澤大学大学院に入学した。一人で外国で暮らすなど考えもしなかったのが、好奇心や緊張、そして不安な毎日だった。

バイト先のいじめは私にとって悲しい経験の一つだった。日本に来て三ヶ月たった頃、父が病気で倒れ、母一人で頑張って生計を立ててきた。一家の収入が激減したため、私はなんとか自分の力で大学院に入るための学費を稼ごうと決心した。最初のバイトはレストランで皿洗いの仕事だった。週3回授業の後、夕方から夜遅くまで皿を洗い続けた。職場の人にいじめられ、何回もトイレに飛び込んで声を殺しながら泣いたことは、今になっても忘れられない。

しかし、生きているうちに誰でも「壁」にぶち当たる。

今では、この苦労した経験によって自分は成長したと思えるし、これからどんな山があっても、それを乗り越える自分に自信を持っている。

今、振り返ってみると、五年間の留学生活は私にとってどこからでも得られない貴重な経験であり、私の一生の宝物である。日本に留学して一番楽しかったことは、いろんな人と出会ったこと。彼らの文化や世界観を体験できたことは私の人生の中でも大きな意味を持っていくと思う。テレビなど、マスメディアの目を通すことなく、直接その国の人の話を聞くことは、私の中で大きな衝撃であり、まさに開眼の瞬間でもあった。

帰国後、一人でも多くの中国人に真の日本を伝え、日本文化と日本人を理解してもらいたい。日本理解の輪を広げ、そして増やすことが私の一番の抱負であり、また昔から两国をつなげてきた絆を大切に、留学経験を活かして、さらに大きな文化交流の橋を架けたいと思う。

トピックスTopics!

12月21日

ボーイスカウトのもちつき大会に招待されて、会館生の
プーペー君(ラオス)・カン君(ベトナム)・

宋さん(韓国)が参加した。

年末恒例の行事に触れることができたし、子どもたちとも
もちつきや、ゲームをしたり交流ができて楽しかった。

12月25日

クリスマスの当日会館でも盛大に

クリスマスパーティーが行なわれた。

手作りの飾り付けが華やかな雰囲気を作り、
ドリンクコーナーなども設けて、お楽しみ盛たくさんの
にぎやかなパーティーが夜遅くまで続いた。

1月7日

会館で委員長選挙が行なわれ第16代の委員長に
パイン君(ミャンマー、敬愛大)、副委員長に宋さん
(韓国、敬愛大)とノイ君(ラオス、敬愛大)が選
ばれた。

これから1年間、会館をよろしく頼みます。

2月15日

ソウルにて李秀賢さん(会館生H14、韓国)と
篠佑基君(会館生H14、日本)の結婚式が
盛大に行なわれ、理事長夫妻も参列した。日本
とはまた違う結婚式の様式で興味深かった。

お二人に幸多かれと願う。



OB来団



1月15日

OBの呉炎さん(奨学生H10、中国)が奥さん、娘さ
んと訪ねて来てくれた。アメリカ留学中の娘さんが
成人式のために千葉に帰って来たそうだ。

見違えるほど美しく成長されて

ご両親もさぞ満足でしょう。

1月19日

OBのソメス君(会館生H10、カンボジア)が来訪
してくれた。仕事で来日中とのこと。

昔の人気者のソメス君も2児の父になり、母国
のためにがんばっている。うれしいことだ。

1月26日

OBの馬成鎮君(会館生
H12、韓国)が出張で
来日し、忙しい中を訪
ねてくれた。



馬くんは翌朝会館を訪れ8年ぶりの会館に感激してい
た。奥さんの尹明淑さん(OB)も市役所でデザインの
仕事をしていて、街のあちこちで

彼女の作品が見られるそうだ。

ケーキ作り

2月のある日、奨学生4人が会長
夫人にケーキ作りを習った。4人
とも見事にふくらんだスポンジケ
ーキに大喜び!



08年10月号でご紹介した伊谷周一さんから、留学生に
ぜひ見てもらいたいと、ありがたいプレゼントが届いた。
豪華な花嫁衣裳だ。細かい刺繍とあでやかな色合いに
留学生達はうっとり!

会長宅の日本間に当分飾ってあるので
ぜひ鑑賞してください。